

〈中学部夏期研修〉 執筆：松山 順子（豊能地区）

テーマ

アートにどっぷり浸ってみませんか？～国立国際美術館での鑑賞学習～

はじめに

中学部では、毎年夏と冬に府美研所属中学校のニーズに応じた研修を実施している。

学校現場の仕事に追われ、忙しくしている中で美術教育に携わる今の教員は、自分自身がじっくりと時間をとって美術作品を鑑賞する機会がなかなか得られないのが現状である。また、美術科の教員は、各校1名ないし2名程度しかいないことがほとんどなので、鑑賞における教員間の交流はほぼ行われていないと思われる。

そんな現状を踏まえて、今回は令和6年（2024年）7月25日に鑑賞教育をテーマに教員間の交流をしながら視野を広げていこうというねらいで夏期研修を実施することとなった。

研修の様子

国立国際美術館は今回講堂を使用することができず、会議室での開催となったので研修に参加できる人数は限られていた。しかし、この限られた人数であるからこそ、「じっくり鑑賞」という企画が生まれた。

研修参加者は13名。受付を済ませて研修室へ入り、グループ分けされた3～4人で座席に着いた。資料配付の後、まず中学部部長の中島先生からの挨拶と研修の流れの説明があり、その後早速国立国際美術館の学芸課主任研究員の藤吉さんに講義を進めていただいた。

まず、『国立美術館アートカード・セット』を使って、実際にゲームを楽しみながら鑑賞に必要な基礎力を育てるような活動のいくつかを体験した。指導のポイントなども事細かに助言いただき、今後の鑑賞教育に活用できる展望がひらけた。



次に、所蔵作品をじっくり鑑賞して、先ほどのグループで意見を交流した。意見交流することによって、自分個人では気づかないような視点で見るとまた違ったものが見えてくることに面白さを感じた。

ここで全体としては研修を終了し、BF3のコレクション展、梅津庸一「クリスタルパレス」の自由鑑賞の時間を閉館までの約1時間とった。多彩な創作活動を展開している作者の個性溢れる作品の数々をじっくり堪能することができた。

参加者のふり返しより

アートカードの活用法について

- ・自分では思い付かない発想が聞けて面白かった。授業で使うビジョンがみえた。
- ・改めて気づくことや考えることができた。また、学芸員さんによる詳しい説明や留意点をうかがうことができてよかった。 ・他のいろいろな使い方を学べて勉強になった。
- ・やってみてとても可能性を感じた。

じっくり鑑賞について

- ・他者に伝えると言うことも考えると、より真剣に鑑賞できたので、生徒にもさせてみたい。
- ・じっくり時間を取って鑑賞できたのは良かった。意見交流も出来て新たな感覚や情報を得られたのがよかった。
- ・じっくり鑑賞して、他の先生の意見に気付かされる所がとて多く、勉強になった。
- ・日頃はじっくり浸ることができないので、機会が設けられたことがよかった。人それぞれに過ごし方が違った様子は、児童生徒のそれと似たところがあり、そういった視点でも授業や学校活動での実施に活かそうである。 ・学芸員の方と話ができてよかった。



本研修全体を通して

- ・ゆっくりと作品を見ることで様々な形の美しさに気づけたり、他の先生方の意見で新たな見方に出会えたり充実した研修になりました。
- ・美術だけでなく、どんな事もじっくり考えないといけないし、その様な時間を取ってあげないと、と生徒に対して思った。
- ・こういった美術教育に携わる者同士が集まって意見交流できる機会に参加できたことが意義深いと思う。
- ・アートカードをどのように使っていくのか自分自身が整理できれば非常に有効な手立てだなと感じた。人によってアートへのアプローチや感じ方もそれぞれだなと感じた。そのことが改めてわかったので気づきになった。普段、学校では美術教員が一人なので、アートのことで話をするということも基本はないのでよかった。
- ・生徒だったらという、子ども目線で作品を鑑賞でき、また、他校の先生の感想など知ることができてよかった。
- ・あらためて、美術館で、絵を鑑賞することの大切さを実感した。できれば、生徒に絵を見る機会を実施したい。

今後に向けて

令和6年度の夏期研修は、事後のアンケート結果からも、潜在的なニーズに合った内容であったのではないだろうか。各校で一人ということが多い美術科は、どのようにネットワークを構築して授業力の向上に結び付けるかということが依然として課題である。今後も多様な手法で互いのネットワークを充実していく機会をつくっていききたいものである。